

2016  
3月15日  
火曜日

# 建設新聞

発行所 建設新聞社  
本社 仙台市青葉区春日町7-5 TEL022(221)4601(大代)  
青森支局 青森市古川1丁目21-11 TEL017(722)8631(代)  
岩手支局 盛岡市菜園1丁目3-6 TEL019(651)8045(代)  
秋田支局 秋田市山王4丁目3-10 TEL018(862)6921(代)  
山形支局 山形市松波1丁目10-16 TEL023(641)2800(代)  
福島支局 福島市宮下町17-20 TEL024(534)0138(代)  
東京支局 東京都江東区豊洲1-3-1 TEL03(5547)1367



## 目の確かな歩み実感

岩手県沿岸地域では、津波被災地の本格再建を告げる「まちびらき」が大槌町と大船渡市で開催され、震災から6年目を迎える中、復興の着実な進展を印象付けた。

12日には、大槌町が進める町方地区震災復興土地地区画整理事業のうち未広町地区の造成工事が完了し、現地でまちびらき式が開催された。

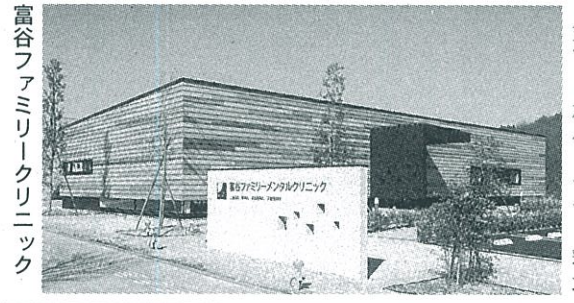
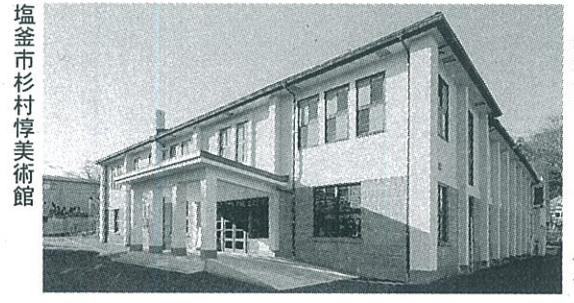
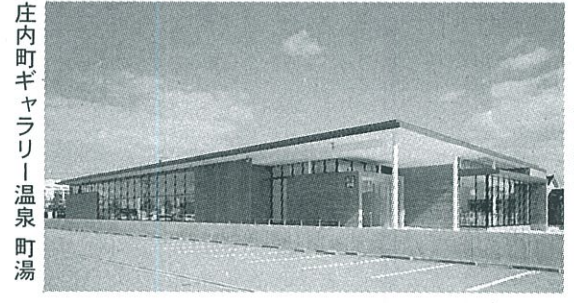
式典には事業関係者や地元町民など約100人が集まり、まちびらきを祝うとともに、町の早期復興を誓い合った。平野公三町長は事業協力者に感謝を述べた上で、「いよいよ中心市街地のまちづくりが始まる。町民一丸

対象権利者は107宅地(民有地99、町有地8)で、住宅用地と緑地、沿道には商業地を配置した。宅地は2月15日から引渡を開始している。また、当地区内では災害公営住宅(RC造6階建て、53戸)も同時に整備が完了し、4月1日から入居開始を予定している。

駅周辺地区の土地地区画整理は、全体約33・8段で、J R大船渡線を挟んで山側と海側とで区分して造成を行っている。このうち海側約7・7段を津波復興拠点整備事業に位置付け、中心市街地の形成に向け、商業業務施設の集積を目指して

戸田市長(中央)らによるテープカット

東北地方整備局は、東日本大震災からの復興加速に貢献があった計67団体の表彰を決めた。東日本大震災から5年の節目として、集



計67団体を表彰  
復興加速関係表彰式 東北整備局

東北地方整備局は、東日本大震災からの復興加速に貢献があった計67団体の表彰を決めた。東日本大震災から5年の節目として、集

建設物価調査会ほか  
5月から建機  
施工試験講習会  
東北は盛岡、仙台で

日本建築学会東北支部(源栄正人支部長)の第36回東北建築賞が決定した。作品賞に▽二本松市立とうわこども園▽庄内町ギヤラリー温泉 町湯▽塩釜市杉村惇美術館▽富谷ファミリアメンタルクリニック▽i-HOUSEの5点

が選ばれた。今回応募があったのは、小規模建築部門5点、一般建築部門23点の計28作品。昨年10月に作品発表会を開催し、第1次審査を行った後、現地審査や第2次審査を経て小規模建築部門から2点、一般建築部門から3

点を作品賞に決定した。特別賞の受賞は無かった。また、研究奨励賞部門は、仙台高等専門学校建築デザイン学科・小地沢将之准教授の「建築系インターンシップの満足度評価」が選出された。

市の東北大学青葉山キャンパス工学部人間・環境系教育研究棟で開かれる「みちのくの風2016宮城」で行う。一般建築部門での講評によると、とうわこども園は「職員室とエントランスの見通しを確保しつつ、乳幼

児の空間と活発に活動する園児の空間を明確に分けるなど、年齢以上に身体能力の差に配慮が感じられた」点などが高い評価を得た。

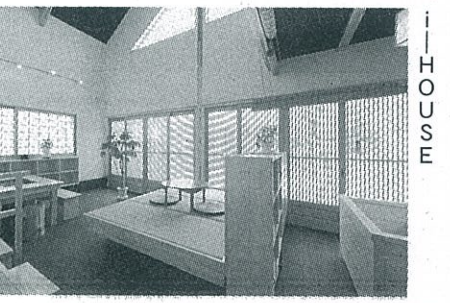
また、庄内町ギヤラリー温泉 町湯は、「完成度が高く、町家をキーワードとして、全てを関連付けし完了したデザインとしている」。杉村惇美術館は「1950年に建てられた公民

館をリノベーションして価値を高めることに成功している」と評価した。

入賞作品の概要は次の通り(作品名、所在地、①設計監理②施工③施工の順。敬称略)。

## 6月18日、仙台で表彰式 作品賞に「とうわこども園」など5点 第36回東北建築賞

建築学会東北



館をリノベーションして価値を高めることに成功している」と評価した。

入賞作品の概要は次の通り(作品名、所在地、①設計監理②施工③施工の順。敬称略)。

建設機械施工技士を目指す受験者向け講座。16年度版「建設機械施工技術必携」をテキスト、「建設機械施工技術検定問題集」をサブテキストに過去の出題傾向を分析し、ポイントを押さえた重点講義方式となっている。1級受験者から要望の多い、記述式問題の対策も教える。

盛岡の宿泊は、市内の中心地  
有限 二和旅館

連続壁の内空断面を侵さず補強が可能  
水門 堰 橋台

## 【i-HOUSE】

東北の住まいでは、常に冬の寒さ対策が問われます。一方で3月から11月にかけての東北の気候は、非常に快適です。外気を適度に取り入れることにより快適な室内環境が得られますが、特に夏季を中心とした季節では逆に速やかな廃熱のための大開口による通気が必要です。

i-HOUSEはこの意味で意欲的な作品です。我が国の田の字型プランに土間のついた伝統的な民家のプランを踏襲し、この土間空間を大開口のついた無断熱とし、春、夏、秋の東北の快適な気候に対応した楽しい空間としています。また冬には土間以外の住まい部分を高断熱高气密化し、この土間空間を外部と住まい部分との緩衝空間としています。土間以外の高断熱高气密化された部分は、基本的に吹き抜けや続き間となっており、各部屋は冬に温度差のない環境を創出しています。

この住宅は設計者が震災復興に向けて、快適でかつ東北らしさや東北の伝統的文化を支える家のプロトタイプとして考えていたもので、このコンセプトをクライアントが気に入り実現したものだそうです。

審査会に於いては、開口部のとり方や、意匠的な外観について更に工夫が期待されるとの意見もありましたが、新たな東北の気候風土や通年を通じての生活スタイルに対応した意欲的な作品であり、東北建築賞に相応しい住宅作品です。